

## 世界の自然を守るWWF

WWFは約100カ国で環境保全活動に取り組む、世界最大の民間団体です。WWFの活動は、世界の500万人の方から寄せられた会費や寄付により行なわれています。

### ご支援よろしくお願ひいたします

WWFジャパンはWWFネットワークの一員として、国内外の自然保護活動に取り組んでいます。会費・寄付は下記の方法にてご入金いただけます。どなたでも参加できる自然保護。ご支援をよろしくお願ひいたします。

個人会費：月額500円から

法人会費：年額一口20万円

寄 付：特に定額はありませぬ

◎お電話一本でご入会、ご寄付いただけます

TEL：03-3769-1241

(事務局直通 クレジットカード寄付)

受付時間：月～金 10:00～17:30

◎郵便振替

口座番号：00100-4-95257

加入者名：WWF Japan

◎Web Site

サイト上で手続きが出来ます。トップページにある「活動へのご参加・ご支援」をクリックしてください。

<http://www.wwf.or.jp>

### お問い合わせ

ご支援、ご入会、会員制度についての詳しいお問い合わせは、WWFジャパン会員係まで。

TEL：03-3769-1241 [hello@wwf.or.jp](mailto:hello@wwf.or.jp)

<http://www.wwf.or.jp>

### WWFジャパン

財団法人世界自然保護基金ジャパン

〒105-0014 港区芝3-1-14日本生命赤羽橋ビル6F

代表：03-3769-1711 FAX：03-3769-1717

PANDA SHOP：03-3769-1722 法人係/募金：03-3769-1712

©WWF Registered Trademark

©1986 Panda symbol WWF-World Wide Fund For Nature(formerly World Wildlife Fund)



for a living planet®

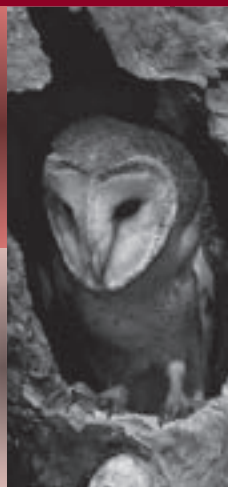
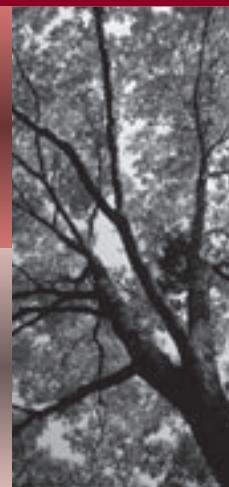


photo ©WWF-Canon / Martin Harvey / WWF-Japan



# WWF Japan Annual Report 2005-2006

WWFジャパン 年次報告書 2005 / 2006年



## Index

2	2005年度年次報告に寄せて WWFの自然保護活動	11	WWFジャパンの支援事業
3	森林	12	2005年度 情報発信履歴
4	淡水生態系		<b>WWFの収支報告</b>
5	海洋	13	2005年度 収支報告
6	野生生物	15	個人の方からのご支援について
7	地球温暖化	16	募金について
8	有害化学物質	17	法人からのご支援について
9	グローバル200	19	パンダショップについて
10	トラフィック	20	WWFジャパン役員名簿
		21	WWFについて

本誌に掲載する活動内容および収支決算は、2006年6月のWWFジャパン理事会にて承認された報告内容、およびWWFインターナショナルの年間報告等を基にまとめたものです。

## WWFジャパン 年次報告書 2005 / 2006年

2006年9月1日発行

発行人：樋口隆昌  
発行：WWFジャパン  
編集：WWFジャパン/広報担当  
アート・ディレクション：SONICBANG CO.,

©本誌掲載記事、イラスト等の無断転載はお断りいたします。

©本誌は、王子製紙株式会社、王子通商株式会社のご提供によるFSC認証紙（OKトップコートマット N エコフォレスト）を使用しています。

# 2005年度年次報告に寄せて ～活動35周年を迎えて～

WWFジャパン 事務局長  
樋口隆昌

1971年にWWFネットワークの一員としてWWFジャパンが日本に誕生してから、35年がたちました。この間、WWFジャパンは、多くの人々、企業、パートナーなどに支えられながら、絶滅に瀕した野生生物の保護活動を支援することのみならず、広く環境保全を推進する日本を代表する環境保護NGOとして、大きく成長してまいりました。地域の人々の参画、文化の相違や社会的な要因も視野に入れながら、WWFの6つの重要なテーマ、森林、淡水生態系、海洋、野生生物、地球温暖化、有害化学物質、および「グローバル200」を軸とした活動を日本で展開してまいりました。

一方で、21世紀を過ぎた現在、この星の自然環境の劣化は、ますます深刻になっています。世界中で多くの森林が失われ、生命を支える淡水生態系は急激に損なわれ、十数億の人々が深刻な水不足の下で暮らしています。自然資源の枯渇、海の環境汚染、気候変動による生態系の異変など、これまで人類が経験したことのない大きな課題が、前途に待ち受けています。

また、この35年の間に、日本の世界的な位置付けも大きく変化しました。高度経済成長を経て、日本はいまや経済大国であると同時に、消費大国でもあります。自然資源消費の問題に対して解決策を提示し、無駄の無い効率的な資源活用の途を切り開くことが、日本の環境NGOの大きな役目だと考えています。さらに、経済発展と人口増加による自然環境へのインパクトが著しいアジア太平洋地域において、日本の環境NGOが先進的なケースを提示することが、今世紀の自然保護・環境保全の一番の鍵を握るといっても過言ではないでしょう。WWFジャパンが果たすべき役割は、今後さらに大きくなることが予想されます。

生命を育む美しい水の惑星、地球。私たちが暮らし、私たちの子孫がこのかけがえのない星に暮らしつづけるには、より多くの人々が手を携えて課題に取り組まなければなりません。WWFジャパンは、WWFネットワークの一員として、日本だからこそ取り組むべき活動に、これからも尽力してまいります。

## 自然保護活動

WWFの使命は、次の3つの活動によって、地球の自然環境の悪化を食い止め、人類が自然と調和して生きられる未来を築くことです。

- ◎世界の生物多様性を守る
- ◎再生可能な自然資源の持続可能な利用が確実に行なわれるようにする
- ◎環境汚染および資源とエネルギーの浪費を防ぐ

WWFは地球規模の環境問題に取り組むため、主に6つのテーマと、「グローバル200」に基づいた活動を行なっています。

# 森林

## 森林とWWF

2005年夏、イギリスで開催されたG8サミットでは、「森林の違法伐採」がテーマの一つとして採り上げられました。国際的にも大きな注目を集めているこの問題について、WWFは近

年、保護区や伐採地といった区分にかかわらず、貴重な環境が残る森林を「保護価値の高い森林（HCVF）」と呼び、その保全に努めています。木材を主要輸出品とする国では、企業の伐採許可地にHCVFが含まれている場合も多いため、WWFは企業に対し伐採地の森林を再度評価するよう求めています。

森林の持続的な利用と管理を

認証するFSC（森林管理協議会）は、2005年までに72カ国で約830カ所の森を認証しました。その総面積は、約76万平方キロに及びます。

また、森林保護区については、2004年までに合計522万平方キロが指定されましたが、資金や管理の面で問題が起きている例も多く、地域の理解と参加を得た運営が求められています。



©WWF-Canon / Martin HARVEY

[WWFジャパンの活動]

## 日本につながる世界の森林を保全する

木材の輸入大国である日本は、世界各地で行なわれている森林伐採に、間接的に大きくかかわっています。2005年、WWFジャパンは、木材貿易の面から日本と関連が深く、かつ破壊的な森林伐採が大きな規模で起きている、インドネシアとロシア極東地域の森林を保全するため、活動を強化しました。

インドネシアでは、同地から木材を調達している日本の企業を対象に、現地視察を実施。他の国内企業に対しても、合法性や持続可能性を保証された木材の調達を目指す、「責任ある林産物の調達方針」の策定を行なうよう働きかけました。

FSCの認証製品を積極的に扱う国内の企業・団体のグループ「WWF山笑会」では、

新たに賛助会員の制度を制定。より多くの組織の参加を呼びかけ、2005年度末の会員数は、正会員22組織、賛助会員3組織を数えました。国内で認証されたFSCの森林面積も順調に拡大しており、現在24カ所、合計27万ヘクタールに上っています。

◎絶滅のおそれが高いアムールヒョウなどが生息する、極東ロシアの沿海州の森林破壊に、日本への木材輸出が大きく関与していることから、現地の森林回復のための支援を広く呼びかけるとともに、違法材を含む木材貿易の問題について取り組んでいます。

<http://www.wwf.or.jp/forest/>



# 淡水生態系

## 淡水生態系とWWF

淡水生態系を保全するには、川や湖そのものだけでなく、水源である森林を守り、流域の開発や汚染を防ぎ、人間による水や魚介類の利用を持続可能な形にすることが必要です。WWF

は多様な生物とたくさんの人口を抱える広大な流域の保全を図るため、長江、アマゾン川、メコン川などにおいて、その地域の政府や住民が参加する保全計画づくりを進めています。

2005年11月には、「ラムサール条約会議」がウガンダで3年ぶりに開催されました。水鳥とその生息地の保全を目的に作られたこの国際条約では、近年、

経済的に貧しい地域での水資源の確保と、流域生態系の保全をどうやって両立させるかが重要なテーマとなっています。

WWFはこの会議に参加し、持続可能な水の利用や淡水漁業を進めた結果、生態系の保全だけでなく、貧困の緩和にもつながった事例を発表し、各国の政府に対して、こうした取り組みへの協力を求めました。



©WWF-Canon / Martin HARVEY

[WWFジャパンの活動]

## 琵琶湖流域の魚類の現状を明らかに

2004年度にスタートした「WWF・ブリヂストン びわ湖生命の水プロジェクト」。その活動の中心は琵琶湖の魚類調査です。特に、琵琶湖に昔からいた魚（在来魚）の生息状況や、魚にとってどのような環境が暮らしやすいのかなどを、周辺の河川を含めて調べ、保全計画の作成・実行をめざしています。

調査マニュアルを作って大勢の人が参加できるようにしたことで、広い範囲からデータを集めることが可能になりました。また、市民、企業、行政、NGOの参加意識や一体感を高めることにも役立っています。

これまでの調査の結果、流域全体で約72種の淡水魚（日本の純淡水魚類は約90種）の生息が確認され、琵琶湖流域の魚類の多様

性が、改めて立証されました。

一方、ブルーギルやブラックバスなどの外来魚が流域河川にも侵入していて、メダカやスナヤツメなど絶滅のおそれのある種や、モロコなど日本の固有種に大きな影響を与えていることも明らかになりました。

◎WWFとブリヂストンが「琵琶湖博物館うおの会」とともに立ち上げた「お魚ネットワーク」には、現在、200を超える市民グループや学校、行政などが参加しています。

◎2005年度に調査が行なわれた地点は延べ4,000ヶ所以上、1,900名を超える人々から、貴重な魚類分布データが寄せられました。

<http://www.wwf.or.jp/freshwater/>

# 海洋

## 海洋とWWF

地球の表面積の2/3を覆う海。この海を環境を保全するためには、多様で、しかも複雑に絡み合った数多くの問題を解決しなくてはなりません。

WWFは現在、海の生態系の

保全と、その恵みである漁業資源の持続可能な利用を推進する活動に、力をいれています。

海洋保護区を設立することによって、海域の環境を保全することも、その取り組みの一つです。2005年度には、国家面積の98%を海が占めるフィジー政府が、WWFの支援によって、2020年までにその30%を海洋保護区に指定することを公約し

ました。

また、需要の増加により、その枯渇が深刻な状況になっている、水産資源の問題については、日本の食卓にも深く関係する、マグロが大きな注目を集めました。WWFの調査により、地中海などでマグロの違法漁業が判明。この問題は、日本の流通業界にも警鐘を鳴らすことになりました。



©WWF-Canon / Michel GUNTHER

[WWFジャパンの活動]

## 人の暮らしと海の共存をめざす

日本の海や干潟など、沿岸の環境保全を考える時、人の暮らしを抜きに語ることはできません。WWFジャパンも「人と海の共存」をテーマに活動を展開しています。

◎有明海に面した佐賀県鹿島市で「ふるさとの海」メッセージコンクールを実施。入賞者は、石垣島白保の海を訪れることになりました。自然を活かしたまちづくりモデル事業は、地域と地域の交流活動へと広がりはじめています。また、有明海と人の暮らしを追ったドキュメンタリーDVDも作成。図書館などを中心に全国に配布しました。

◎地域の市民団体、漁業者、行政と協力しながら、九州の中津干潟、有明海、沖縄の泡瀬

干潟、四国の吉野川河口、千葉県三番瀬などの沿岸地域で、干潟の保全と持続的な利用に向け支援・提言を行なっています。

◎国内で保全すべき重要な沿岸の自然を明らかにするため、前年に続き干潟を代表する生物である、渡り鳥のシギ・チドリ類の調査に、地域の人たちと協力して取り組みました。

◎資源や環境に配慮した漁業を認証し、それによって生産された海産物を消費者が選択できる、MSC（海洋管理評議会）の漁業認証制度。2005年度、WWFジャパンは、国内およびアジアで初となる、日本の漁業のMSC認証取得を支援しました。2006年度中には、認証漁業の第一号が誕生する予定です。

<http://www.wwf.or.jp/marine/>



# 野生生物

## 野生生物とWWF

現在、世界の各地で、数多くの野生生物が、絶滅の危機に瀕しています。IUCN（国際自然保護連合）の「レッドリスト」にその名が掲載されている野生生物は、実に1万6,000種あま

り。その多くは、生息地の自然破壊や乱獲、温暖化や汚染などが原因と思われる環境の変化によって、数が減少していると考えられています。

WWFは2005年度、インドネシアのスマトラ島やボルネオ島、極東ロシアなどの地域で展開した森林の保全活動に合わせて、そこに生息する、アジアゾウやアムールヒョウ、トラなど

の保護や調査活動を実施。

また、内戦が続いていたネパールのインドサイヤ、西アフリカのアフリカゾウなど、密猟や密輸の犠牲になっている野生生物についても、取引状況の調査や密猟の取り締まりを支援しました。

これらの取り組みは、2006年度以降も継続して行なわれています。



©WWF-Canon / Martin HARVEY

[WWFジャパンの活動]

## 包括的な野生生物保護と地域の活動を支援

日本には現在、外来生物や鳥獣保護に関する法律はあっても、野生生物の保全そのものを目的とした法律がありません。そこで、WWFジャパンは現在、国内の多くの自然保護団体と協力しながら「野生生物保護基本法」の制定を求め、活動を行なっています。

また、既存の法律については、2005年度は特に、特定外来生物被害対策法や、2006年3月に改正を控えていた鳥獣保護法など、現状の野生生物保護の基礎となる法規制と、環境行政全体の改善をめざし、関係省庁や国会議員に対して、積極的な提案や働きかけを行ないました。

この他、特定の野生生物をテーマとした活動では、特にクマの保護活動を推進。国内の

ツキノワグマ保護・調査活動を支援したほか、2006年に長野県で予定されている、国際クマ会議の開催に向けた準備を開始しました。

◎十数頭といわれる四国のツキノワグマ調査を支援。2006年度に予定している保護活動への基礎作りに取り組みました。また、研究者グループと共に、中国地方のツキノワグマ保護の呼びかけも行ないました。

◎鳥獣保護法の改正に向け、環境省の担当を招いた意見交換会や、緊急集会などを実施。地方の鳥獣行政を担う人材育成などを含む、長期的な施策を提案しました。

<http://www.wwf.or.jp/wildlife/>

# 地球温暖化

## 地球温暖化とWWF

2005年度は、G8（主要国首脳会議）や第1回京都議定書締約国会議、そして、アジア太平洋パートナーシップ閣僚会合など、温暖化防止にかかわる国際社会の動向が活発になった一年

でした。WWFはこれらの国際会議を機会に各国政府に働きかけ、国際合意やそれぞれの国の取り組みが、温暖化防止へ真に実効性をもった結果を生み出すよう訴えてきました。

また、明らかになってきた温暖化の影響と危機についても情報発信に取り組みました。これまで不明な点が多かった魚類への温暖化の影響や、強まるヨー

ロッパの嵐について、報告書を発表。すでに温暖化の影響を受けている各国の人々が、その脅威を証言するシンポジウム「温暖化の目撃者たち」を、日本とヨーロッパで開催しました。

企業がWWFと温室効果ガスの削減協定を結ぶ「クライメート・セイバーズ」には、新たに2社が参加。今後も参加企業の増加をめざします。



©WWF-Canon / Michel GUNTHER

[WWFジャパンの活動]

## 国内外で温暖化防止に向けた取り組み

2005年度、WWFジャパンは、企業や行政との協力のもと、温暖化防止に対する一般の関心を高めるキャンペーン「温DOWN化計画」を展開しました。エコクッキング教室や、燃料電池住宅見学会を実施。さらに、ブログを使った「身近で感じた温暖化ストーリー」の収集を行ない、その内容をキャンペーンサイトで紹介しました。

11月には、カナダで温暖化を防止する唯一の国際条約「京都議定書」の第一回会議が開かれ、WWFジャパンもこれに参加。「京都議定書」の効力が期限を迎える2013年以降、世界が温暖化防止に向けた取り組みを行なうための対話を開始する、という、締約国の合意を取り付けました。

◎10月、東京で「温暖化の目撃者たち」シンポジウムを開催。実際に温暖化の被害に遭っているフィジー、ネパール、北極圏から目撃者たちを招待して、日本の目撃者たちと共にその体験を語ってもらい、報道などを通じて広く温暖化に対する関心を喚起しました。

◎国内排出量取引制度について、企業に向け3回のセミナーを開催。日本の温暖化対策の抜本策として提案しました。

◎イギリスで開催されたG8に向け、各国の温暖化対策を評価した「G8スコアカード」を発表。国内では、積極的な温暖化防止を求めるメールを小泉首相に出すよう、ウェブサイト上で呼びかけました。

<http://www.wwf.or.jp/climate/>





# 有害化学物質

## 有害化学物質とWWF

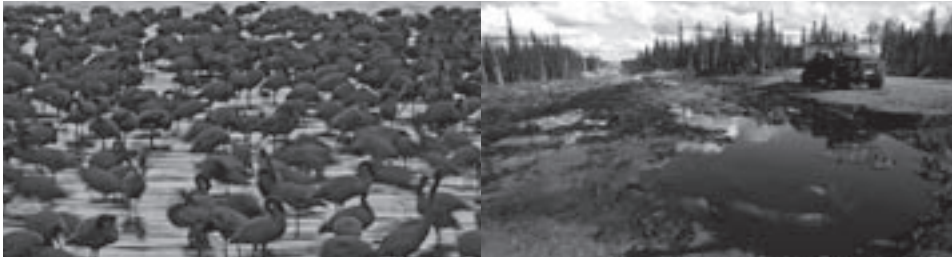
2005年、WWFはヨーロッパにおける新しい化学物質規制案「REACH」を後押しし、有害化学物質の廃絶を求めるDETOX（解毒の意）キャンペーンを、引き続き展開しました。10月

には欧州12カ国で親子3世代の血液を検査し、家庭内で家電や家具などに使用されている化学物質が、親より子供の世代に高濃度で検出された例を報告。化学物質が新しい世代に及ぼす危険性を指摘しました。

また、2005年5月に開催された「残留性汚染物質（POPs）に関するストックホルム条約」の第1回締約国会議に先立ち、

20の新規POPs候補物質のリストを発表。このうちの5つが現在、条約で検討されています。

2006年2月に国際化学物質管理会議で採択された「国際的な化学物質管理のための戦略的アプローチ（SAICM）」にも参加。2020年までに化学物質の著しい悪影響をなくそう、というヨハネスブルグ・サミットの約束の実現をめざしています。



©WWF-Canon / Michel GUNTHER / Martin HARVEY

[WWFジャパンの活動]

## 政策とフィールドをテーマに活動を展開

DETOXキャンペーンの一環として、日本でのREACHへの理解を深め、国内の化学物質政策の見直しを求める活動を行いました。6月には、POPsについてわかりやすく解説した冊子「私たちと地球の未来を脅かす化学物質：残留性有機汚染物質POPs」を作成。一般に無料で配布しました。また、9月には化学物質のユーザー企業向け「REACHビジネスセミナー」を開催しました。

また2005年度からは「南西諸島における野生生物の有害化学物質調査」を開始。経済発展の著しい中国や東南アジア諸国に隣接する、沖縄のサンゴ礁や沿岸部の重要湿地で、有害化学物質による海洋生物への影響を調査しています。今後は引き続き、研究者や地域

のNGOの方々と協力しながら、ウミガメ類、イルカ・クジラ類、魚介類、サンゴなどについて、調査を実施する予定です。

◎11月、5つの市民団体と共に「化学物質汚染のない地球を求める東京宣言」（2004年採択）を支持する約2万人の賛同署名を添え、東京宣言に述べられた理念を日本の環境政策の中で実現するよう、小泉首相に求める要望書を提出しました。

◎11月、船底塗料や農薬で使われる化学物質が、サンゴの生育に影響を及ぼすおそれがあることを発表しました。

<http://www.wwf.or.jp/toxic/>

# グローバル200

## グローバル200

「グローバル200」とは、WWFが世界各地から選んだ、優先して保全すべき200の自然環境（エコリージョン）のこと。WWFは現在、そのいくつかで

政府機関や地域関係者、NGOなど、さまざまな人たちと協力しながら、長期的な自然環境の保全に取り組んでいます。



©WWF-Canon / Martin HARVEY / WWF-Japan

[WWFジャパンの活動]

### [南西諸島]

#### ◎沖縄の自然保護

世界的に希少な自然が残る、日本の南西諸島。WWFは2005年度、沖縄島最大の渡り鳥の飛来地、泡瀬干潟で進行中の埋立て事業の見直しを国と県に要請したほか、絶滅の危機にあるジュゴンへの悪影響が心配される、名護市での米軍普天間飛行場の代替施設建設計画の中止を求めました。また、他の環境NGOと共にフィリピン、ベトナム、タイから専門家を招き、「アジア太平洋ジュゴン保護ネットワークシンポジウム」を共催しました。

外来生物問題については、沖縄島の住民を対象に意識調査を実施。今後の対策に役立ててゆきます。

#### ◎石垣島白保のサンゴ礁保全

WWFサンゴ礁保護研究センター「しらほサンゴ村」は、地域によるサンゴ礁の保全と、海の持続的な利用を支援する活動に取り組んでいます。2005年度は、地元の人々を中心

とした「白保魚湧く海保全協議会」の設立と活動を支援。8月からは、アクセンチュア株式会社の支援を受け、協議会や地元の人々と共に、昭和20年代に姿を消した伝統的な漁具「垣」の復元を開始しました。この取り組みにより、住民が再び地元の海に親しみ、保全を考える場ができることが期待されます。

また、白保サンゴ礁海域で赤土の堆積調査やサンゴや海洋生物の調査を実施したほか、6回目となるWWFしらほサンゴ村体験ツアーも開催。自然の素材を用いた郷土料理を学ぶ白保郷土料理研究会や、地元の物産が並ぶ白保日曜市の開催にも取り組んでいます。

<http://www.wwf.or.jp/shiraho/>

#### [黄海エコリージョン]

中国と朝鮮半島に囲まれた黄海エコリージョンは、漁業資源や多くの野生生物が生息する世界最大級の大陸棚です。

2005年、WWFは中国、韓国のNGO、研究機関と共に国際ワークショップを開催し、海棲哺乳類や鳥類など、これまで集めた6分野の生物約120種のデータを基に、広大な黄海エコリージョンの中で、優先的に保全すべき海域を特定しました。今回まとめた「優先保全地域マップ」は、UNDP（国連開発計画）

が2005～2009年にかけて行なう黄海プロジェクトにも活用されることになっています。今後は優先保全地域の自治体や漁民などの関係者、一般市民、旅行者などを対象とした、普及啓発活動に取り組む予定です。

<http://www.wwf.or.jp/global200/>

©WWF-Canon / Michel GUNTHER / Martin HARVEY



## トラフィック

野生生物の消費大国である日本に事務局を置くWWFジャパンでは、希少種を保護し、水産、木材、薬用などの生物資源を確保するため、野生生物取引のモニターを専門とするトラフィックネットワークを通じて、ワシントン条約や、国内法の施行支援、一般への情報発信に取り組んでいます。

### ◎希少種の保護

日本の象牙市場調査を実施。トラフィックの提言に基づき、政府の施行策が改善されました。また、ペットとして人気のあるリクガメなど爬虫類の相次ぐ違法取引について、関連法律の改正を要望。法執行機関への情報提供を通して、取り締まりに協力しました。

### ◎資源の確保

木材の違法取引を減らすため、東京とインドネシアで政府関係者向けのワークショップを開催。ここでの問題提起が、ASEANの違法取引を取り締まるプロジェクトとして実行されることになりました。また、日本の税関が違法な木材の識別に利用できる「木材種識別マニュアル」も作成しました。

水産資源については、マグロに関する国際会議への参加や、関係省庁への提言などを実

施。日本が海産物を多く輸入している黄海の水産取引についても報告書を作成しました。

クマを脅かす一因となっている、クマノイ（熊の胆:漢方薬の原料となる）の取引についても報告書「クマを飲む日本人」を発表。2006年に開催する、クマ関連シンポジウムの準備にも取り組みました。

### ◎ワシントン条約と国内法の施行支援

伝統的な香料として利用される香木の一つ「沈香」の国内取引状況について、条約の植物委員会に報告しました。また、日本の税関の職員研修を実施。キャビアの国内取引については、EU（ヨーロッパ連合）のラベリング制度を参考とした規制の導入を経済産業省に要望しました。

### ◎野生生物取引問題への理解を広げる

トラフィック イーストアジア ジャパンでは、クマについての特設サイトを新設し、メールマガジンの配信を開始するなど、インターネット上での情報発信に力を入れました。また、野生生物取引についてのアンケートも実施。今後の活動に役立てる予定です。

<http://www.trafficj.org/>

# WWFジャパンの支援事業

WWF自然保護助成事業では、日本各地の市民団体や研究者による自然保護活動を支援しています。2005年度は11団体に計800万円を助成しました。また、WWFと日興コーディアルグループが設立した、WWF・日興グリーンインベスターズ基金は、2005年度、12団体に計1,940万円を助成しました。

<http://www.wwf.or.jp/enetwork/>

## [2005年度WWF自然保護助成事業 資金配分先一覧]

事業名	団体名 / 代表者名	支援額(万円)
<b>森林の保全</b>		
西中国山地・細見谷上流部の溪畔自然林の生態学的評価と、十方山林道の大規模林道化による影響について	森と水と土を考える会	50
<b>淡水生態系の保全</b>		
魚のゆりかごマップ調査	田んぼの水辺研究会	60
<b>海洋の保全</b>		
日本の干潟におけるアサリ移入実態調査	東京湾アサリ再生プロジェクト	60
シギ・チドリ学習教育事業・有明海自然活用活性化事業	七浦地区振興会	80
中津干潟及びその水系の環境保全と賢い利用を考える研究発表会とフィールドワーク	水辺に遊ぶ会	60
<b>生物多様性の保全</b>		
四国におけるツキノワグマ生息地の森林再生に関する生態学的研究	NPO法人 四国自然史科学研究センター	80
安定同位体によるツキノワグマの生息環境履歴の解明	信州ツキノワグマ研究会	90
2004年IUCN勧告の履行を求めるキャンペーン	ジュゴン保護キャンペーンセンター	70
ヤンバルクイナの郷づくり	ヤンバルクイナの郷実行委員会	70
日本沿岸域におけるウミガメ類の回遊行動追跡調査と、混獲およびストランディングにおける情報とサンプルの収集体制の構築	日本ウミガメ協議会	80
<b>地球温暖化関連</b>		
温DOWN化ニュース発行事業	NPO法人 SOW	100
<b>支援額合計(万円)</b>		<b>800</b>

## [2005年度WWF・日興グリーンインベスターズ基金 助成団体一覧]

事業名	団体名 / 代表者名	支援額(円)
<b>ライフスタイルの見直し</b>		
森林環境に配慮した木材・紙調達の取り組みの促進	熱帯林行動ネットワーク	150万
MSC認証制度に関する国内体制形成事業	海と人のシステム研究会	199万8,000
<b>環境教育・普及啓発</b>		
球磨川河口干潟保全のための環境教育教材化	八代野鳥愛好会	100万
国際クマ会議開催とアジアのクマ類の保護管理指針提案	2006年IBA日本開催実行委員会	235万5,180
日本におけるフィフティ・フィフティネットワークづくりによる省エネ教育の推進	国際環境NGO FoE Japan	155万450
<b>自然・環境保全</b>		
知床における漁業活動と海生哺乳類の関連実態調査	特定非営利法人 北の海の動物センター	219万
準絶滅危惧種ノジコの繁殖生態と生息環境選好性の解明	ノジコ研究グループ	120万510
八重山諸島砂浜海岸の環境破壊の評価；15年間の変化	特定非営利法人 日本ウミガメ協議会	160万
サハリン開発による野生動物への影響調査・提言活動	北海道ラプターリサーチ	230万
防除を通して野生動物との共存への意識を培う	かもしかの会関西	100万
大雪山セイヨウオオマルハナバチ監視ネットワーク構築	大雪山マルハナバチモニタリング研究会	141万2,400
吉野川河口干潟保全のための市民検討委員会の設置	とくしま自然観察の会	130万
<b>支援額合計(円)</b>		<b>1,940万6,540</b>

# 2005年度 情報発信履歴

WWFジャパンが記者発表やホームページ上で発信した主なトピック

## 【森林】

- 2005.4.14 その数、2,800カ所  
多発するインドネシア・リアウ州の森林火災を追う
- 2005.5.12 違法伐採対策の推進を!  
G8サミットに向け、環境NGOが共同提言
- 2005.6.24 森林生態系に配慮した紙製品の調達に関するアンケート結果を発表
- 2005.7.4 「FSC森林認証セミナー&展示会」報告書ができました!  
「植林許可」が自然の森の伐採を呼ぶ  
本当に森に優しいマークはどれ?  
国際的な森林認証制度を比較調査
- 2005.9.22 「消費から考える森林保全」  
福島県にて開催されたセミナーより報告
- 2005.9.22 小さなチョウの大旅行  
超軽量飛行機がオオカバマダラの移動を追いかけた!  
ボルネオの低地熱帯林、10年以内に消失の危機
- 2005.12.12 木材輸入国は、世界規模の森林破壊に荷担している  
知っていますか? 「紙」の新しい環境基準について
- 2005.12.27 沿海州・タヨーン野生生物保護地域の危機と未来
- 2006.2.20 森林に配慮した木材を使おう! NGOが共同提言
- 2006.3.28 多発するゾウと住民の衝突 ～インドネシア・スマトラ島より

## 【淡水生態系】

- 2005.4.20 びわ湖生命の水プロジェクト「春の水辺観察会」を開催!
- 2005.10.6 彦根東中学校の総合学習を支援
- 2005.10.10 WWF・プリヂストンびわ湖生命の水プロジェクトが彦根市と「市民環境フォーラム」を開催
- 2005.10.31 2005年 琵琶湖お魚ネットワーク 調査ランキング上位は小中学校
- 2006.2.10 深刻化する水不足とウェットランドの破壊  
世界ウェットランドデーに提言
- 2006.2.14 マニアに狙われたカメ  
マコードナガクビガメが絶滅寸前
- 2006.3.9 日本最大のガンの飛来地・伊豆沼に危機  
温泉排水が流入のおそれ
- 2006.3.24 第2回琵琶湖お魚ネットワーク交流会を開催しました
- 2006.3.31 「琵琶湖流域の水環境を守るために」  
琵琶湖お魚ネットワークがパンフレットを作りました

## 【海洋】

- 2005.5.13 養殖サケが海に逃げたら、一体どうなる…?
- 2005.5.27 環境への配慮なき判断 福岡高裁が諫早湾干拓事業  
工事差し止めの仮処分を取り消し
- 2005.5.27 有明海の豊かさを心と体で感じよう!  
2005年ガタリンピックに参加しました
- 2005.6.3 外来のウイルスに脅かされる地中海の魚たち
- 2005.7.28 石垣島・白保のサンゴ礁で、赤土堆積調査を実施
- 2005.8.5 カラ倍陸上案に「反対の声があった」ことの明記求める  
新石垣空港の環境アセスメントに対して  
国際法に違反したマグロの流通が判明
- 2005.11.8 泡瀬干潟の埋め立て工事の一時中断を! 国と沖縄県に要請
- 2005.12.1 日本初! 世界が認める「環境に配慮したシーフード」  
～京都でMSC認証の本審査はじまる
- 2006.3.3 世界25カ国が「国際ウミガメ年」を発表
- 2006.3.8 タイで新しいサンゴ礁を発見!
- 2006.3.31 ミナミマグロの厳格な漁獲管理のための省令一部改正  
にパブリックコメントを提出

## 【野生生物】

- 2005.5.10 日本最後のジュゴンの生息地に危機!  
辺野古のボーリング調査の「夜間作業」強行に抗議
- 2005.6.7 固有種の宝庫に危機が押し寄せる  
奄美大島で外来種に関するアンケートを実施
- 2005.8.5 「特定外来生物法」の第二次指定候補種が決定しました
- 2005.8.24 2万6,000種の野生動物の分布情報がデータベースに!  
尽きない需要…カリマンタン島のオランウータンの今
- 2005.9.15 世界最大のカバの個体群に迫る絶滅の危機
- 2005.10.4 「助っ人ベビーベア」を手に、クマと人との共存をめざす  
「国際クマ会議」を応援しよう!
- 2005.10.20 WWF、普天間飛行場代替施設案の中止を求めて  
米国政府高官に意見書を送付
- 2005.11.21 カブトムシ、クワガタムシ、マルハナバチ…  
外来生物となる外国産昆虫の輸入に提言

- 2005.12.5 鳥獣保護法の改正に向け提言!
- 2005.12.8 新種発見!? ボルネオ島で赤毛の肉食動物みつかる
- 2005.12.15 外来種新法、新段階へ  
日本初の外来種対策法の意義と運用の難しさ
- 2006.1.5 環境万博 後始末は大丈夫!?
- 2006.1.12 西中国山地最後の聖地「細見谷」  
ツキノワグマの森を守れ
- 2006.1.31 アジアの国々に学ぶジュゴン保護
- 2006.2.2 国際基準を満たしていない? 銀行の融資について報告書
- 2006.2.17 環境配慮のメダルの色は? トリノ五輪のグリーン度
- 2006.3.2 「サハリンII」計画への追加融資は問題あり
- 2006.3.8 鳥獣保護法は「改正」されたのか?
- 2006.3.15 チベットで毛皮が大流行!? トラ密猟の危機に
- 2006.3.22 在沖羅米軍の北部訓練場ヘリコプター着陸帯移設計画に意見書

## 【地球温暖化】

- 2005.4.5 中国で「再生可能エネルギー法」成立  
2010年までに全電源の10%めざす
- 2005.4.6 パネル展をやろう! 新セット「地球温暖化とグリーン  
パワー」できました
- 2005.4.12 初のゴールド・スタンダード・プロジェクトを歓迎
- 2005.4.26 WWF、「パワー・ランキング 電力会社スコアカード」  
を発表
- 2005.4.28 「京都議定書目標達成計画」の閣議決定への疑問  
国会での議論も経ずに決定されたのはなぜ?
- 2005.6.24 WWF「クライメート・セイバーズ・プログラム」の今と  
これから
- 2005.6.24 ウェブ上で「小泉首相にレターを出そう!」とアクション  
を呼びかけ
- 2005.6.24 拜啓 小泉首相殿… G8に先立ち、WWFが小泉首相に  
書簡を送付
- 2005.7.4 「G8スコアカード」を発表 温暖化防止の取り組みで、  
アメリカはランキング最下位
- 2005.8.8 温DOWN化キャンペーン“エコ・クッキング体験会”  
開催!
- 2005.11.18 魚は小さくなって、産卵が減る?  
気候変動は世界の魚を危機にさらす
- 2005.11.28 進むか!? 温暖化防止に向けた世界の取り組み  
第1回 京都議定書締約国会議 (COP/MOP) 開催!
- 2005.12.2 「温暖化の目撃者たち」シンポジウム  
講演の報告を掲載しました
- 2005.12.12 世界の温暖化防止活動、新たな段階へ!  
京都議定書締約国会議 (COP/MOP) 現地報告
- 2006.1.24 今後のカナダの温暖化対策は?
- 2006.1.27 気温は4度も上がる? アジア太平洋地域の温暖化防止
- 2006.2.3 CDM (グリーン開発メカニズム) 「改革」の順未
- 2006.2.27 温暖化防止に向けたオフィスビルの挑戦  
『ビルのCO<sub>2</sub>削減大作戦』を発表
- 2006.3.6 気候変動がヨーロッパを襲う 冬の嵐の脅威

## 【有害化学物質】

- 2005.6.2 残留性有機化学物質に関するストックホルム条約、動き  
始める ダイオキシンやPCBなどの、有害化学物質  
問題の今後? \*
- 2005.7.4 有害なPOPsをわかりやすく解説したブックレットが完成
- 2005.9.30 欧州の新化学品規制案REACHの意味を考える
- 2005.10.7 母親よりも、子どもの世代が高濃度に汚染
- 2005.11.8 「化学物質汚染のない地球をめざす東京宣言」に2万人が賛同
- 2005.11.24 有害化学物質は、サンゴの成長を阻害する

<http://www.wwf.or.jp/>

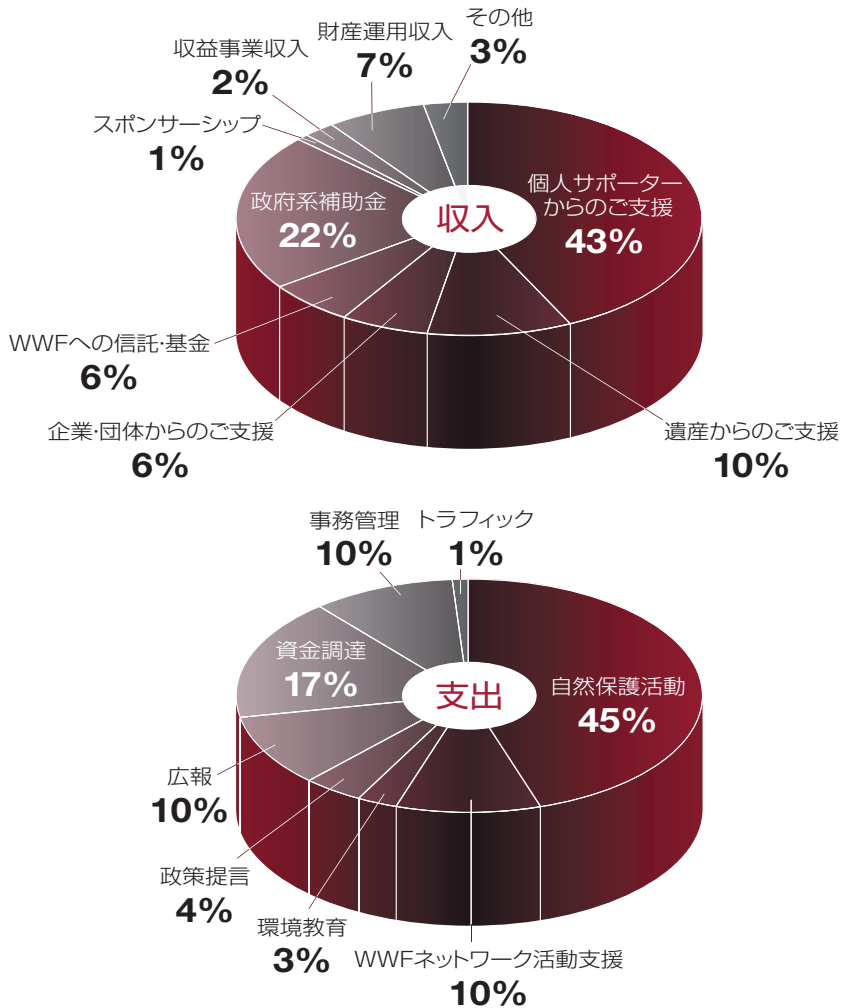
# 2005年度収支報告

## WWFネットワークの収支報告 (2005年7月～2006年6月)

収入……4億9,962万USドル (約574億円)

支出……4億6,125万USドル (約530億円)

※2006年7月10日現在の為替レート (1US\$=¥114.99) にて換算

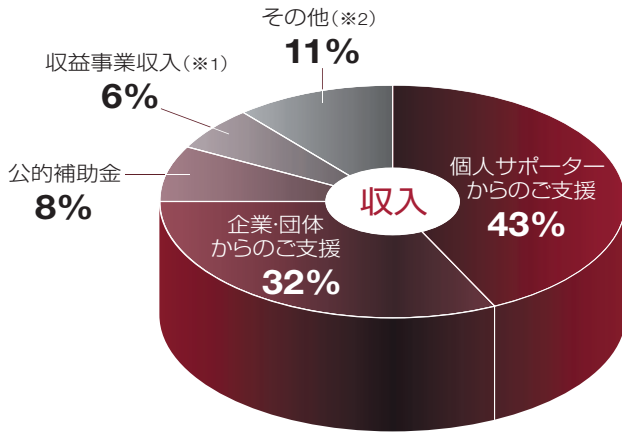


WWFの活動は、個人、企業など、さまざまな支援者（サポーター）により支えられています。WWFネットワークでは、ご支援くださる皆さまのご希望を尊重し、優先して取り組むべき活動に資金を活用することで効果的な活動を行なうと共に、定期的に正確な報告を約束するため、外部の会計検査官による監査などを受け、厳しい財務管理に取り組んでいます。

世界中の皆さまから頂いている継続したご支援と信頼は、WWFの取り組みを支える、最も重要な礎です。それは、長い年月にわたり、多くの自然保護活動を支え、その目的を達成に導く、大きな力に他なりません。

# WWFジャパンの収支報告 (2005年4月～2006年3月)

活動収入……6億2,833万円  
活動支出……6億5,413万円



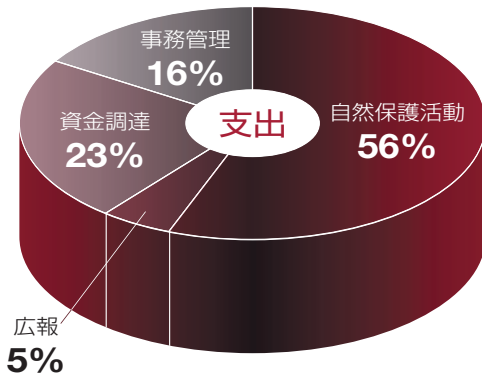
(※1)「収益事業収入」はバンドショップやライセンス事業などの収益事業の利益金額のみを計上しています。

(※2) 収入の「その他」は、費用負担金収入（イベント等に掛かった当会の費用を、企業等が負担した収入）および利息収入、その他雑収入が含まれます。

### 【個人からのご支援の内訳】

会費	1億4,864万円	55%
寄付	9,094万円	34%
募金	2,987万円	11%
<b>個人サポーターからの ご支援合計</b>	<b>2億6,945万円</b>	<b>100%</b>

(万円未満四捨五入)



### 【自然保護活動の内訳】

本部拠出金	5,800万円	16%
森林	5,748万円	16%
淡水生態系	1,404万円	4%
海洋	3,346万円	9%
野生生物・トラフィック	5,170万円	14%
地球温暖化	3,245万円	9%
有害化学物質	2,732万円	8%
グローバル200	6,152万円	17%
助成事業	1,969万円	5%
その他	841万円	2%
<b>国内外の自然保護への 支出合計</b>	<b>3億6,407万円</b>	<b>100%</b>

(万円未満四捨五入)

[WWFジャパン 2005年度]

総収入：8億8,387万円 / 総支出：8億5,506万円

総収入・総支出は、活動収入および活動支出に、それぞれ下記の収支を加えた金額です。また収支の差額は次年度に繰り越されます。

● 特定預金取崩分(収入)	2億4,554万円	前年度から特定の目的で繰越された預金を取崩した金額です。
● その他収入	1,000万円	収益事業会計からの資金の移動を示す「元入金戻り収入」です。
● 特定預金繰越分(支出)	1億7,946万円	次年度以降へ特定の目的で繰越した金額です。
● その他支出	2,147万円	収益事業会計への資金の移動を示す「元入金支出」です。

WWFジャパンへのご支援は、一部が本部(WWFインターナショナル)へ送金され、国際的な環境保全活動に役立てられています。また、国内では6つのテーマに基づいたプロジェクトのほか、グローバル200に選ばれたエコリージョン(南西諸島、黄海など)の保全、および日本各地で地域に根ざした自然保護に取り組む団体・個人との協力・支援活動に充てられています。

# 個人サポーターについて

## ◎個人サポーター数

2005年3月に行った入会キャンペーンなどの効果により、会員数は前年より約500人(2.5%)増加しました。

サポーター(※)	2005年3月末	2006年3月末
会員	20,098人	20,627人
寄付者(会員を含まない)	7,352人	7,365人
バンドショップ購買者(会員、寄付者を含まない)	7,438人	7,730人
<b>合計</b>	<b>34,888人</b>	<b>35,722人</b>

※それぞれの時点から過去2年間に会員期間が存在する会員、または入金があった寄付者・購買者を対象としています。

「WWFカード」ご利用者(会員・寄付者等を含む)	13,048人
	2006年3月末現在

※「WWFカード」は、利用金額の0.5%相当額が、発行元である株式会社クレディセゾンからWWFに寄付されるクレジットカードです。

# 寄付キャンペーン実績

サポーターの皆さまに呼びかけたご寄付のお願いに対して、2005年度もたくさんのご支援が集まりました。ご協力をありがとうございました。

6月	「クマからの手紙」	3,289件/1,805万1,334円
12月	「アムールヒョウ・最後の砦」	3,267件/2,435万6,882円
3・11月	「サンゴ村新聞」	212件/147万1,515円

2006年3月末現在

# その他の会員系の活動

## ◎ジュゴン、ノグチゲラ、ヤンバルクイナの保全施策を求める署名活動

2005年5月、政府にIUCN勧告の履行を求める請願署名に対して、会員の皆さまより約11,000人分の署名をお寄せいただきました。他団体と合わせて約4万件の署名を、34名の国会議員を通して衆参両議院の環境委員会へ提出しました。残念ながら8月の郵政民営化関連法案にともなう国会解散により審査未了となってしまいましたが、この署名活動が多くの人々の関心を集め、国会議員にも問題を提起できたことは大きな成果です。WWFジャパンは引き続きこの問題に取り組んでゆきます。ご協力をありがとうございました。



## ◎初の海外ツアー - ボルネオ島ホームステイ

2005年10月、会員向ツアーとしては初めての海外ツアー「ボルネオ島ホームステイ体験ツアー」を実施しました。会員を中心に22名の方が参加され、キナバタンガン川で暮らす小さな村での生活を体験しながら、WWFマレーシアが取り組んでいるオランウータンの森を再生する活動の現場を視察しました。2006年度は4月に第2回小笠原ホエールウォッチングツアーを実施したほか、10月には「ドイツ・環境首都フライブルク体験ツアー」を計画しています。





# 募金について

WWFジャパンでは募金箱やその他のさまざまな手法によって不特定多数の方から集められた支援金を「募金」と呼んでいます。現在、全国各地の店舗、病院、宿泊施設、その他公共施設など約2,000カ所で募金箱や入会パンフレットなどを設置していただいています。また、街頭募金、チャリティー販売、社員募金など、さまざまな手法で、2005年度もたくさんの方々にご協力いただきました。

## 総額20万円以上の募金協力企業／団体

株式会社アトム	各店舗内で募金箱設置
AFLAC日本社員厚生会「One Hundred Club」	社員厚生会による社員からの募金
沖縄県高校生代表者会議	沖縄県立高校の生徒による募金活動
カスミグループ	各店舗内で募金箱設置ほか
株式会社ココストア	各店舗内で募金箱設置
株式会社資生堂「SHISEIDO社会貢献くらぶ 一花椿基金」	社員による募金
株式会社タカラ	チャリティオークション
財団法人東京動物園協会	園内で募金箱設置
株式会社ニューオータニ	館内で募金箱設置
ハッピーバースデーマリオ開催委員会事務局	チャリティ専用商品販売
PFU労働組合	組合員による募金
愛知万博・日立グループ館	パビリオン内で募金箱設置
ボーダフォン株式会社	社員による募金
株式会社ホットスーパーコンビニエンスネットワークス	各店舗内で募金箱設置
株式会社マルエス 成増会館II	店頭で募金箱設置
株式会社三越 福岡店	クリスマスチャリティイベントでの募金活動
ラブ・ジ・アース実行委員会	チャリティオークションの開催・募金箱の設置など

2005年4月1日～2006年3月31日実績による。50音順 敬称略

### 【募金呼びかけのご協力例】

◎WWF会員の方を中心に北海道で活動している任意団体「パンダクラブ北海道」は、定期的に円山動物園で街頭募金活動をしてくださっています（写真上）。

◎沖縄県立八重山商工高等学校の文化祭では、機械科の生徒さんたちによる「手作りカー」の乗車賃をWWFへ募金していただきました（写真下）。

○パンダクラブ北海道



○八重山商工高等学校 機械科

# 法人からのご支援について

地球環境の保全を推進する上で、社会的にも経済的にも大きな影響力と担うべき役割を持つ企業。WWFは、この企業の取り組み無しには環境問題は解決できないと考えています。最近ではCSR（企業の社会的責任）が広まり、多くの企業が経営課題として環境対策に取り組まれています。これだけですべての環境問題を手がけられるわけでもありません。より幅広く地球環境の保全が推進できるよう、WWFでは企業・団体の皆さまにも、WWFの自然保護プロジェクトへの支援・参画を呼びかけています。

もちろん、資金や協力の見返りとして、WWFが特定の企業に対して便宜を図ったり、活動の方針を変えるようなことはありません。互いの立場を理解し、それぞれの持つ長所を活かして自然保護活動にあたること。これがWWFの進めている企業とのパートナーシップです。

## 2005年度：新入法人会員

株式会社アルファネット  
有限会社ヴィエント・クリエーション  
株式会社エコリカ  
カシオ計算機株式会社  
ジーエルサイエンス株式会社  
株式会社シープレス  
株式会社セシール  
日本郵船株式会社  
ファンドクリエーション不動産投信株式会社

50音順 敬称略

## 会員期間20年以上の法人

株式会社朝日新聞社  
株式会社荏原シンワ  
株式会社荏原製作所  
株式会社荏原電産  
大阪ガス株式会社  
オリンパス株式会社  
清水建設株式会社  
住友商事株式会社  
株式会社瀬津雅陶堂  
株式会社ツムラ  
ディターミンドプロダクションズ株式会社  
株式会社電通  
財団法人東京動物園協会  
凸版印刷株式会社  
株式会社永谷園  
日本ガイシ株式会社  
野村證券株式会社  
富士ゼロックス株式会社  
三菱製紙株式会社

50音順 敬称略

## 【新聞への広告掲載】

2005年10月8日に開催されたシンポジウム「温暖化の目撃者たち」（7ページ参照）では、朝日新聞にシンポジウム内容が後日掲載されました。この掲載は日本テトラパックの協賛によるもので、紙面の3分の2がシンポジウム内容、3分の1がテトラパックの広告となっています。新聞にシンポジウムの内容が掲載されることは、限られた来場者だけでなく、多くの人にメッセージを伝えることを可能にしますが、掲載には多額の費用がかかるため、WWFだけでは実施出来ません。企業の広報サポートを得たことで、今回それを実施することができ、活動により一層弾みがつきました。



## 2005年度に100万円以上のご支援を頂いた法人・団体

名称	内容
アクセンチュア株式会社	プロジェクトスポンサー
アスクール株式会社	寄付キャンペーンなど
アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社)	マッチング寄付
伊藤忠商事株式会社	法人会費など
株式会社エコリカ	リサイクル活動からの寄付など
NTT東京電話帳株式会社	寄付キャンペーン
株式会社荏原製作所	法人会費
オリンパス株式会社	現物寄付など
菊水酒造株式会社	商品プロモーションなど
株式会社クレディセゾン	ポイント寄付など
株式会社コニー	法人会費
株式会社資生堂	マッチング寄付など
實守紙業株式会社/日本製紙株式会社/日本紙通商株式会社	現物寄付
清水建設株式会社	法人会費
宗教法人真如苑	プロジェクトスポンサー
大和建鉄株式会社	法人会費
月島倉庫株式会社	一般寄付
株式会社ディー・エヌ・エー	インターネットチャリティオークション
トヨタ自動車株式会社	法人会費
トライコーン株式会社	一般寄付
日興コーディアルグループ	WWF・日興グリーンインベスターズ基金
フジサンケイビジネスアイ	地球環境大賞開催記念など
日本生活協同組合連合会	寄付キャンペーン
株式会社日本総合研究所	エコファンド
日本郵船株式会社	法人会費
ピー・エー・ジー・インポート株式会社	プロジェクトスポンサーなど
富士ゼロックス株式会社	法人会費
株式会社ブリヂストン	プロジェクトスポンサー
株式会社マイカル	リサイクル活動からの寄付
松下電器産業株式会社	プロジェクトスポンサーなど
丸紅株式会社	プロジェクトスポンサーなど
三菱商事株式会社	法人会費など
株式会社メノガイア	一般寄付
森ビル株式会社	法人会費
株式会社ルミネ	チャリティ専用商品販売

2005年4月1日～2006年3月31日 50音順 敬称略

## パンダショップについて

「パンダショップ」は、年2回発行しているカタログとウェブサイト上で展開している、WWFジャパンの通信販売です。2005年度は、約1億8,500万円を売上げ、通販経費を差し引いた約2,700万円（対売上15%）をWWFの活動資金に充当しました。

創刊から25号にあたる、2005年度上期カタログでは、紙面をA4変型判からB5判に変え、25号記念プレゼント企画を実施しました。

下期カタログでは、国際クマ会議支援商品、祝島（原子力発電所建設予定地）の漁民支援企画など、購入することが「自然保護」にどう役立つかを明確に表現した企画商品を投入しました。これらの商品は多くの注文をいただき、近年低迷していた売上が上向けることにもつながりました。また、インターネットでの販売が伸びていることを受け、メールマガジンの配信やウェブサイト限定販売にも力を注ぎました。

今後も自然保護の一環として、一般の通販との違いを明確にし、購入する方々に「気軽に参加できる自然保護の機会」を提供できるよう努めていきたいと考えています。

<http://www.wwf.or.jp/pshop/>



# 財団法人世界自然保護基金ジャパン 役員等名簿

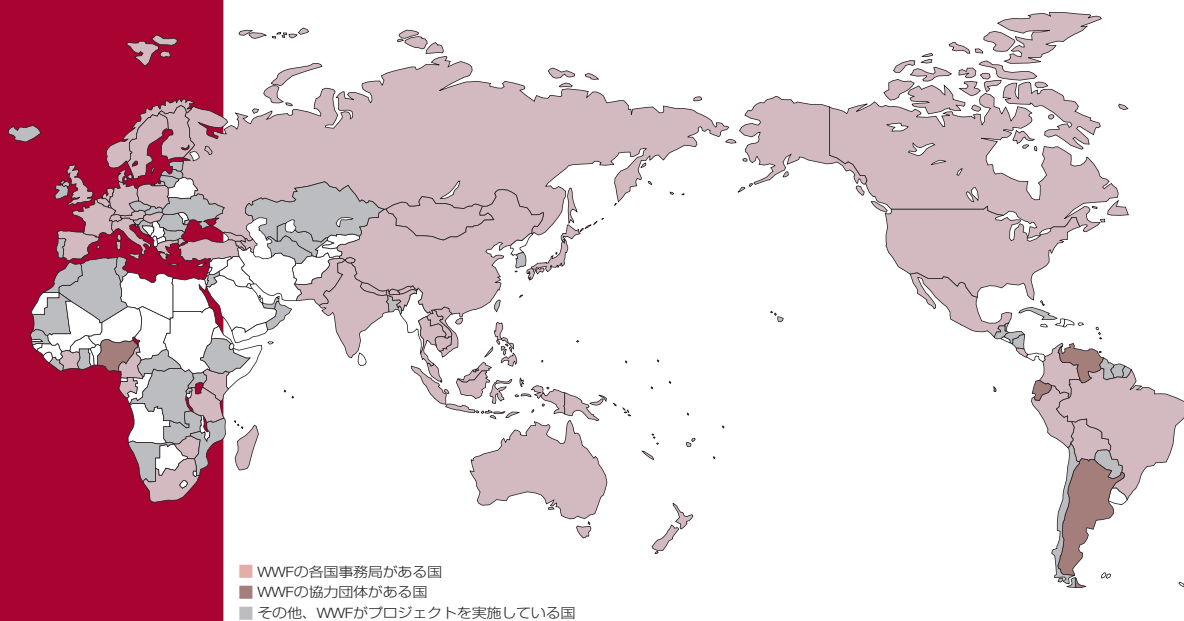
(2006年7月1日現在)

名誉総裁	秋篠宮文仁親王殿下	
会長・理事	大内 照之	元 世界銀行 副総裁
副会長・理事	畠山 向子	(財)畠山記念館 館長
//	島津 久永	(財)山階鳥類研究所 理事長
常任理事	川那部 浩哉	琵琶湖博物館 館長
//	岩槻 邦男	兵庫県立人と自然の博物館 館長
//	渡辺 修	(財)休暇村協会 理事長(元 環境事務次官)
//	徳川 恒孝	(財)徳川記念財団 理事長
理事	池田 弘一	アサヒビール(株) 代表取締役会長
//	黒河内 康	元 特命全権大使
//	小林 陽太郎	富士ゼロックス(株) 相談役最高顧問
//	佐々木 元	日本電気(株) 代表取締役会長
//	東海林 隆	(株)博報堂DYホールディングス 取締役相談役
//	田畑 貞壽	(財)日本自然保護協会 理事長
//	豊田 章一郎	トヨタ自動車(株) 取締役名誉会長
//	中川 志郎	ミュージアムパーク茨城県自然博物館 名誉館長
//	橋本 元一	日本放送協会(NHK) 会長
//	日枝 久	(株)フジテレビジョン 代表取締役会長
//	福澤 武	三菱地所(株) 取締役会長
//	藤村 宏幸	(株)荏原製作所 名誉会長
//	槇原 稔	三菱商事(株) 取締役相談役
//	柳生 博	(財)日本野鳥の会 会長
//	山野 正義	(学)山野学苑 理事長・苑長
監事	奈良 久彌	(株)三菱総合研究所 特別顧問
//	牧岡 晃	元 勤友商事(株) 社長
評議員	愛知 和男	(社)日本ナショナル・トラスト協会 会長
//	朝日 稔	兵庫医科大学 名誉教授
//	伊藤 宏	元 第一勧銀カード(株) 社長
//	今村 治輔	清水建設(株) 相談役
//	岩合 光昭	動物写真家
//	岡本 毅	東京ガス(株) 取締役常務執行役員
//	岡本 寛志	(財)自然保護助成基金 専務理事
//	小椋 佳	作詩・作曲家
//	加藤 登紀子	歌手(WWFパンダ大使・UNEP親善大使)
//	兼子 勲	(株)日本航空 常任顧問
//	神林 章夫	(株)カスミ 名誉会長
//	小宮 輝之	東京都恩賜上野動物園 園長
//	島袋 重信	元 沖縄県環境保険部参事監
//	高藤 鉄雄	三共(株) 相談役
//	田代 和治	元 東京都恩賜上野動物園 園長
//	田中 光常	動物写真家
//	服部 拓也	元 東京電力(株) 取締役副社長
//	日高 敏隆	総合地球環境学研究所 所長
//	星野 真	元 (財)世界自然保護基金ジャパン 事務局長
//	堀 由紀子	(株)江ノ島マリナーコーポレーション 代表取締役会長
//	増井 光子	よこはま動物園(ズーラシア) 園長
//	目崎 茂和	南山大学 教授
//	森 稔	森ビル(株) 代表取締役社長
//	森下 洋一	松下電器産業(株) 相談役
//	山崎 富治	(財)山種美術財団 理事長
//	米澤 健一郎	ソニー学園 湘北短期大学 学長
顧問	黒柳 徹子	俳優
//	山崎 圭	(財)国立公園協会 会長
事務局長	樋口 隆昌	

註：ここに記載されている役員等は、事務局長 樋口 隆昌以外は非常勤・無報酬です。

# 世界の自然を守る WWFのネットワーク

WWFが世界約100カ国で自然保護活動を展開しています。



## WWFについて

WWF（世界自然保護基金）がスイスで設立されたのは1961年。

当初、その活動の中心は、ジャイアントパンダやマウンテンゴリラ、トラ、アフリカゾウといった絶滅の危機にある野生動物の保護でした。

しかし、野生動物の保護は、ただその動物を殺さなければそれでよい、というものではありません。その動物が生きる森や海、時には砂漠のような自然環境を保全しなければ、本当の意味での保護は実現できないのです。

1980年代になると、WWFはその名称を世界野生生物基金=World Wildlife Fund から、世界自然保護基金=World Wide Fund for Nature に改めました。動物保護から環境保全へ、活動の目標を広げるためです。

以来、WWFは南米・アマゾンなどでの熱帯林の破壊や、サンゴ礁の消失、水質汚染といった、地球環境問題に対する幅広い活動を展開し、世界中の国々や、さまざまな国際会議の場において、国境を越えた立場から、自然環境の保全と、持続的な資源の利用を訴えてきました。

多くの生命が、さまざまな形でかかわり合いながら生きる世界=「生物の多様性」を保全していかなければ、人もまた、資源という自然からの恩恵を失うことになるでしょう。

野生動物と人類にとって、より良い地球の未来を築くこと。

それが、WWFの目指す環境保全です。





# 二〇〇六年度の活動とご支援のお願い

WWFは、世界各国で政府や研究者、市民団体、企業、そして地域の方々と共に、地球環境の保全をめざした活動を展開しています。地域の文化や環境に合った、現実的な自然保護を推進するためには、さまざまな立場の人たちと、広く協力することが欠かせません。

国境を越えて、人や、資金や、技術をつなぐネットワークは、WWFという団体が持つ、最も大きな強みといえるでしょう。

このネットワークの中で、WWF ジャパンは2006年度も、たくさんの方々のご理解とご協力のもと、日本の国内外にかかわるさまざまな問題に取り組んでいます。

人と自然の共存と、豊かな未来をめざしたWWFの活動を、本年度も是非ご支援いただきますよう、よろしく願いいたします。

[2006年度の活動より]

- ◎日本が多くの木材を輸入している極東ロシア、インドネシアの森林と、そこに生息するアムールヒョウなどの保全に向け、現地への支援と国内の関連企業に対する働きかけを実施
- ◎日本で初の開催となる「国際クマ会議」を支援。また、絶滅寸前の四国のツキノワグマをはじめ国内のツキノワグマ保護活動を展開
- ◎ジュゴンが生息する沖縄の海で進められようとしている、米軍基地の移設計画が環境に及ぼす悪影響について指摘。計画の見直しを要請
- ◎地球温暖化防止に向け、国際会議の場で各国政府に対し、積極的な二酸化炭素の排出削減を求める。また、世界各地で確認されている、温暖化によると考えられる影響の事例とその目撃者を世界に向けて紹介